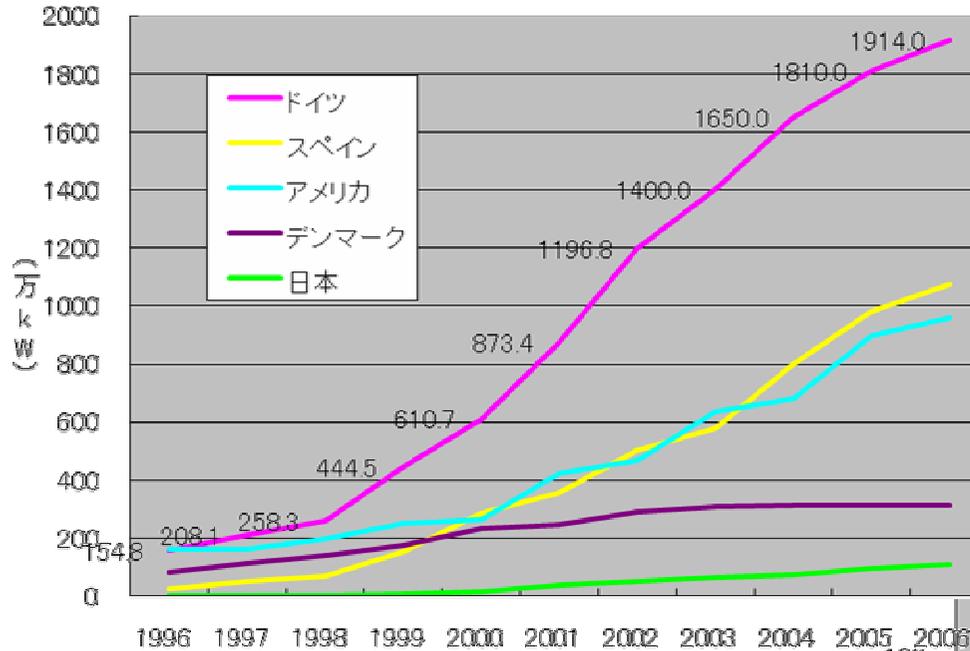




# 各国別風力発電および太陽光発電容量の推移

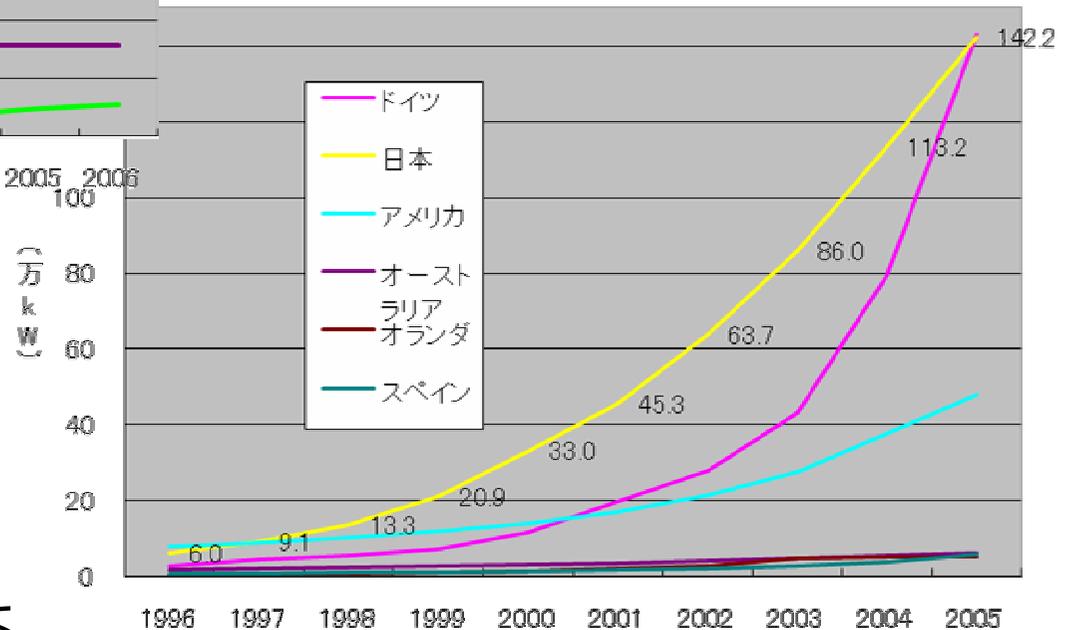


## 風力発電容量

出典: Wind Power Monthly 2006年7月号よりWWF作成

日本は、2001年の風力発電容量目標値300万kW設定から6年が経過しているが、達成は約100万kWに留まり、残り4年で3倍の風力発電を導入するには、政府による抜本的な対策が急務である。

EUでは2010年に12%を掲げ、各国政府は主体的に努力をしている(固定価格買取制度、再生可能エネルギー使用義務、等)。特にドイツは、市場自由化(1998)で新エネルギーが伸び、続く新再生可能エネルギー法(2004)では、高い再生可能エネルギーの買取を全電力会社で負担するが、受益者負担により電力価格に反映されて、国民が責任を負うスキームが担保された。



## 太陽光発電容量

出典: 太陽光発電協会、<http://www.jpea.gr.jp/4/4-2-4.htm>よりWWF作



# 風力発電活性化のシナリオ

「今すぐ行動をとれば、まだ間に合う」(IPCC WGIII, May 4, 2007)

- CO2排出のピークを10年以内に迎え、大幅な減少に向かわせることで、気候変動のリスクを避けることが、生物多様性の保全上最重要課題である。
- 経済の停滞を避けながら上記を達成するには、新エネルギーの活用が重要な削減オプション(将来のために今、高いRPS目標値を設定するなど)である。
- ドイツを初めヨーロッパの先例から、日本でも電力会社だけでなく、広く一般が関われる市場開放と制度の導入が急がれる。

- 「風力発電量2010年300万kW達成」は、最重要削減オプション。
- 先行事例からは、発電量を3倍にするのに最低3年はかかり、制度の改定を伴っている。

日本の目標値達成には、少なくとも今年中に環境影響評価のガイドラインが必要。最終的に必要なのは、戦略的環境影響評価(SEA)の導入。

市場開放と分散型エネルギー社会を見据えた、地域参画型の自然エネルギー活用シナリオの構築。





# 地球のすべての生命のために

今世紀末までに北極は溶け、ホッキョクグマは存続の危機にさらされる



<http://www.wwf.or.jp/climate>

©WWF-Canon/Jack Stein GROVE

